

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2023 年 5 月 19 日

（提出先）

川越市長 川合 善明 殿

提出者

住 所 埼玉県川越市竹野1番地

氏 名 武州製薬株式会社 川越工場

代表取締役社長 高野 忠雄

電話番号 049-233-4651

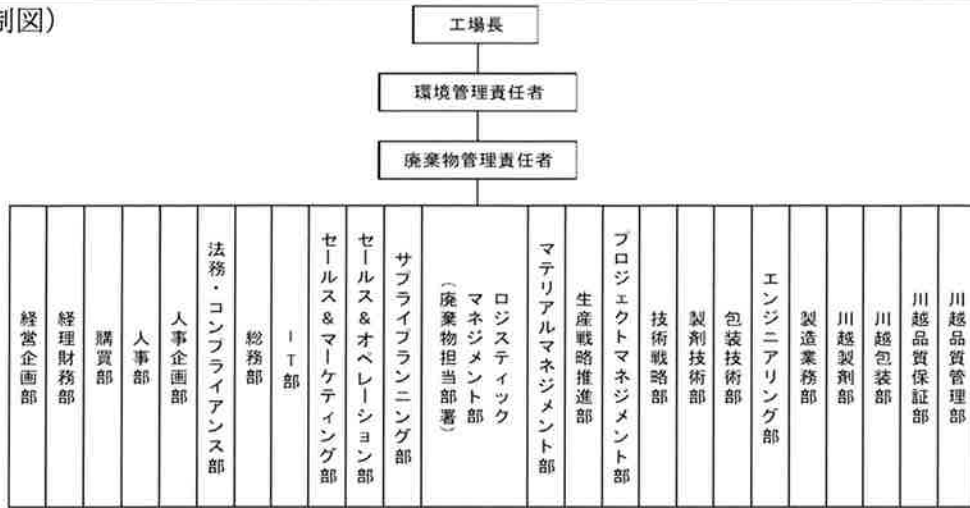
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	武州製薬株式会社 川越工場
事業場の所在地	埼玉県川越市竹野1番地
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	化学工業
② 事業の規模	160億円（令和4年度出荷額）
③ 従業員数	798人（令和5年4月1日現在）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	1. 汚泥→焼却（委託）→セメント原料、肥料化 2. 廃油→焼却、油水分離（委託）→燃料 3. 廃酸→中和、脱水、焼却（委託）→セメント原料、リサイクル 4. 廃アルカリ→中和、脱水、焼却（委託）→セメント原料、リサイクル 5. 廃プラスチック類→焼却、破碎、減容固化（委託）→資源化（RPF） 6. 木くず→破碎（委託）→チップ化（再利用） 7. ガラスくず→破碎（委託）→資源化（カレット）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】
	産業 排出 別紙の通り t
	(これまでに実施した取組) ・プラスチック類の有価物取引再開した。
②計画	【目標】
	産 排出 別紙の通り t
	(今後実施する予定の取組) ・廃プラスチック及びPTP層のマテリアルリサイクル化率の向上を目指す。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・別紙の通り、廃棄物の分別を徹底している。 ・廃棄物の種類別になるべく環境負荷の少ない処理方法を選び、実施。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・分別の徹底とより環境負荷の少ない処理方法の検討を継続して取り組む。 ・廃棄物の分別徹底により、マテリアルリサイクル化を推進する。

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) ・特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし。		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
(これまでに実施した取組) ・特になし。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
(今後実施する予定の取組) ・特になし。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) ・特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙の通り		
	全処理委託量			t
	優良認定処理業者への処理委託量			t
	再生利用業者への処理委託量			t
	認定熱回収業者への処理委託量			t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量			t
(これまでに実施した取組) ・定期的に処理委託先の確認を実施している。 ・新規委託先に対し、事前に施設や処理状況の確認している。				



備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

NO.	種類	令和4年度実績						令和5年度(計画・目標)					
		排出量(t) 全処理委託量	優良認定処理		再生利用	認定熱回収		排出量(t) 全処理委託量	優良認定処理		再生利用	認定熱回収	
			優良認定	非認定		認定熱回収	非認定		優良認定	非認定			
1	汚泥	68.066	23.006	0.000	0.000	68.066	66.7	22.5	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
2	廃油	0.272	0.182	0.000	0.000	0.090	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
3	廃酸	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	廃アルカリ	602.380	296.250	0.000	0.000	602.380	590.3	290.3	0.0	0.0	0.0	0.0	590.3
5	廃プラスチック類	367.910	317.270	66.070	0.000	301.840	360.6	310.9	64.7	64.7	0.0	0.0	295.8
6	木くず	37.460	37.460	37.460	0.000	0.000	36.7	36.7	36.7	36.7	0.0	0.0	0.0
7	ガラス・陶磁器くず	0.800	0.000	0.800	0.000	0.000	0.8	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0
産業廃棄物合計		1,076.888	674.168	104.330	0.000	972.376	1,055.4	660.7	102.2	102.2	0.0	0.0	952.9